

第414回 番組審議会

1. 日 時 平成18年10月17日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 14名

出席委員 10名

出席委員	委員長	藤元 隆一
	副委員長	橋田 純一
	委員	山本 玲子
	委員	和田 利彦
	委員	高橋 三男
	委員	帷子 利明
	委員	佐藤 晴久
	委員	早瀬 藤二
	委員	上野 克幸
	委員	増川 博之

欠席委員	委員	梅村 俊男
	委員	千葉 則茂
	委員	西郷 喜代子
	委員	嶋村 正

社側出席者	中野 士朗 (代表取締役社会長)
	矢後 勝洋 (代表取締役社長)
	新沼 栄喜 (取締役副社長)
	石井 修平 (専務取締役)
	阿部 孝夫 (常務取締役)
	千葉 正範 (営業局長)
	淵沢 行則 (制作局長)
	野田 喜代志 (制作局次長)

事務局	青山 尚之 (編成局長)
	多田 清人 (編成局編成部専任部長)

4. 議 題

1. 地上デジタル放送開始記念特別番組
「夢・見る・ピノキオ特別編～私が愛したいわて～」
10月7日（土）午後2時～2時55分放送
2. その他ご覧になった番組についてのご意見

5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・視聴者からのご意見

6. 議事の概要

社側説明

番組審議会の議題「夢・見る・ピノキオ特別編～私が愛したいわて～」は、地上デジタル放送開始記念特別番組としてハイビジョン対応で放送しました。岩手には、自然、建物、伝統文化、そしてそこに暮らす人々など紹介したいものが沢山ある。地上デジタル放送開局に当たり、改めて岩手のよいところを短編集としてまとめハイビジョンで放送しました。

委員側意見

- ・岩手の自然と、そこに暮らす人々が、デジタル対応の映像で印象的に映し出されていた。
- ・番組タイトルがひねりすぎ。わかりやすいタイトルのほうがよかったのではないか。
- ・多くのことをとりあげすぎで、番組に統一性にかけていたきらいがあった。ストーリーをもたせた内容にしたほうがよかったのではないか。
- ・岩手の伝統文化を紹介しているのに、近代的な建物が突然出てきた。違和感を感じた。
- ・文字スーパーが見にくかった。

7. 審議内容

別紙のとおり

8. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、キー局及び関係局、関連部署に議事録を配布するなど、関係者に審議の内容を伝えた。

9. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における

その公表の内容、方法及び年月日

- ・自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」
(平成18年10月24日(火)午前11時50分～11時57分放送)で、審議の概要を放送。
- ・支社・支局に議事録を設置
- ・当社のインターネットのホームページで議事録を公開。

〈議事の内容〉

- 事務局 定刻になりましたので審議会を始めます。
きょうの議題は10月7日放送の地上デジタル放送開始記念特別番組「夢・見る・ピノキオ特別編～私が愛したいわて～」です。それでは委員長、宜しくお願いします。
- 委員長 それでは、ご意見をお願いします。
- 委員 岩手の雄大な自然が、デジタル放送対応の美しい映像でつづられ、その豊かさ大切さを実感できたいへんよい番組になっていた。また、番組を見て岩手の伝統文化、生活も改めて教えてもらった。
しかし、番組全体が雄大な自然、美しい景色、伝統文化の紹介など、きれいな所良い所の映像だけになりストーリー性にかけていた。ストーリーを持たせて番組を進行させたほうがよかったのではないか。
- 委員 岩手の自然、伝統文化を、守り伝えたいという気持ちが番組全体にあふれていて、たいへんよい番組になっていた。
番組タイトルが「私が愛したいわて」と過去形になっているが、現在も受け継がれている事象を取り扱っているので「私が愛するいわて」と現在形にしたほうがよかったのではないか。
番組は、私たちが愛する岩手の自然、伝統文化、生活を取り上げているが、岩手の内陸部の紹介に偏っていたのではないか。沿岸部、また南岩手にも目を向けてほしかった。また、冬の映像が少ない気がした。春夏秋冬すべての季節を取り扱ってほしい。
- 委員 デジタル対応の映像がすばらしい。
ただし、素材の紹介が多すぎて、番組全体がいささか忙しい。また、場面ごとの番組スーパーもくどかったような気がした。
タイトルの「私が愛したいわて」の私とは誰だったのか？ちょっとひねりすぎ。もうすこしわかりやすいタイトルでもよかったのではないか。
また、伝統文化の紹介という番組の観点からすると、コンクリート造りの小学校の映像には違和感を感じた。
番組全体を通して、デジタル対応の映像が大変すばらしい。これからも、このような美しい番組を放送していただきたい。
- 委員 地上デジタル対応のハイビジョン映像。十二分に楽しませてもらった。

特に、木々の緑と空の青、白い雲。そして水の透明感がすばらしい感覚で表現されていた。

ただし、55分の番組にしては多くの素材を取り上げすぎ。ひとつひとつの題材は、ゆったりとすばらしい映像なのだが、詰め込みすぎのため、番組全体に落ち着きがない、ちぐはぐな感じになってしまった。テーマをしぼって、内容を掘り下げて表現したほうがわかりやすかったように感じた。

委員 とても素敵な番組だったと思います。

デジタル対応の番組から、きれいな画面、音が実感できた。岩手の自然、伝統文化、生活といろいろ紹介してもらい、大変楽しめた。

岩手には良いところが沢山ある。このように盛り沢山の内容は、これはこれだけののではないかと思う。これからも美しい所を沢山紹介してほしい。

ただ、残念だったのは番組内のスーパーがみにくかったこと。情報量が多すぎた。ひと工夫してほしい。

委員 岩手の宝物を沢山見させてもらいました。木々の緑、水の音などデジタル対応の映像を堪能した。

また、自然だけではなく人にも焦点をあてたことがよかったと思います。

自然体で話す人々の表情、笑顔、日に焼けた顔に刻み込まれたしわが印象的だった。

ただし、番組内の文字スーパーが多すぎ見にくかった。ひと工夫ほしい。

委員 岩手には、心に残る風景が豊富にあるということを改めて感じさせてくれた。

このような豊富な材料を番組で紹介するには、ひとつやふたつのテーマで描き出すのでは無理がある。この番組のように、オムニバス形式の番組作りが適切な手法だと思う。

また、自然体で話す人々の表情も印象的に映し出されていた。このように心を開いて話すのは、毎週日曜日の夜にレギュラー放送して培われたノウハウ蓄積の賜物であろうと思う。

そして、BGMも効果的に使われていた。

委員 全体としての印象は、地上デジタル放送開始と銘打っただけに、手数をかけて丁寧に作られた番組だった。

いわての自然、伝統、文化が美しい映像をベースに、ナレーションとインタビューでつづられ、その奥深さと豊かさを実感できて大変良かった。折に触れてこうした番組を制作してほしい。

チューリップ、ススキの映像はあったが、冬の映像だけがなかった。春夏秋冬がそろえば、さらに良かったのではないかな。

反面、通常の「夢・見る・ピノキオ」と同じ流れの選曲、構成だったため、やや盛りだくさんのすぎて散漫なきらいもあった。特別編ならではの選曲、構成があってもよかったのではないか。

字幕の説明が白字のうえ小さすぎて、見づらかった。もう少し全体のペースを緩やかにして、字幕の情報量を多くしてもいいかもしれない。

個々の場面で感じたことは、ローカル線の話では、高校生が乗り込み、特に女子高生がメールを打っている場面に、今も地元の大切な足であることや、過疎地も確実に都会化していることを実感させられた。岩泉線から花輪線、山田線につながる場面が唐突で、ややわかりにくかった。

西和賀のブナの話では、ファザーツリーを取り巻いて「子供」にあたる若い木が取り巻いている映像を見て、自然の循環の仕組みについて、なるほどと思わされた。

村田久さんが登場した「岩手の清流」の場面だけ、川や場所の名前が伏せられていた。釣り人としてポイントは極秘ということか。多くの人が殺到して荒らされることへの懸念があったのかもしれない。

ただ、「すくって飲める清冽な水をみんなで大切にすれば長く残る」というからには、せめて場所はどこなのか、特定しない範囲でいいから紹介してほしい。

一戸町で、萬代館の映像のあと、超現代的な一戸南小学校を紹介したのはいいアイデアだった。各建物紹介の場面で、昔と現在を対比させた試みがあれば、さらによかったのではと思う。

クロージングの「風に吹かれて」の選曲は、番組のトーンによくマッチしていた。

委員長 まとめますと

- ・岩手の自然と、そこに暮らす人々が、デジタル対応の映像で印象的に映し出されていた。
- ・番組タイトルがひねりすぎ。わかりやすいタイトルのほうがよかったのではないか。
- ・多くのことをとりあげすぎて、番組に統一性にかけていたきらいがあった。ストーリーをもたせた内容にしたほうがよかったのではないか。
- ・岩手の伝統文化を紹介しているのに、近代的な建物が突然出てきた。違和感を感じた。
- ・文字スーパーが見にくかった。

社 側 「夢・見る・ピノキオ特別編～私が愛したいわて～」は、地上デジタル放送開始記念特別番組としてハイビジョン対応で放送しました。

岩手には、自然、建物、伝統文化、そしてそこに暮らす人々など紹介したいものが沢山ある。地上デジタル放送開局に当たり、改めて岩手のよいところを短

編集としてまとめハイビジョンで放送しました。

ただし、あまり押し付けない形で番組にしたかったので、このようなオムニバス形式での表現になりました。

近代的な建物の紹介の場面は、いささか唐突かなとも思いましたが、古い学校を懐かしむ気持ちを強調したいがための表現でした。

文字スーパーが見にくかったとの指摘の件は、デジタル放送とアナログ放送の画面の画角の違いから来る現象です。デジタル対応の番組が、画角の狭いアナログ放送の画面に配慮すると、文字スーパーが真ん中に集まる結果になる。今後、文字スーパーの取り扱いは注意を要する必要がある、研究を要する。

委員長 他に何かありますでしょうか。では、事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございました。以上で番組審議会を終了いたします。